

まとめ

- ・縄文時代から室町時代までの、各時期の生活痕跡が確認されました。

• 黒曜石、播磨産の土器、青磁・白磁といった時期ごとに他地域との交流を示す出土品が見つかりました。



竹山城跡から尾崎遺跡を望む

参考文献：大原町（2001）『大原町史』地区誌編

岡山県教育委員会(2008)「尾崎遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』213号

※掲載資料・写真の転載はご遠慮ください

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3
TEL 086-293-3211 FAX 086-293-0142
<https://www.pref.okayama.jp/site/koda>



お
尾

さきいせき 崎遺跡現地説明会資料

【日時】令和4年10月1日（土）

[第1回] 10:30～11:30 [第2回] 14:00～15:00

【場所】美作市古町 尾崎遺跡発掘調査現場 【主催】岡山県古代吉備文化財センター

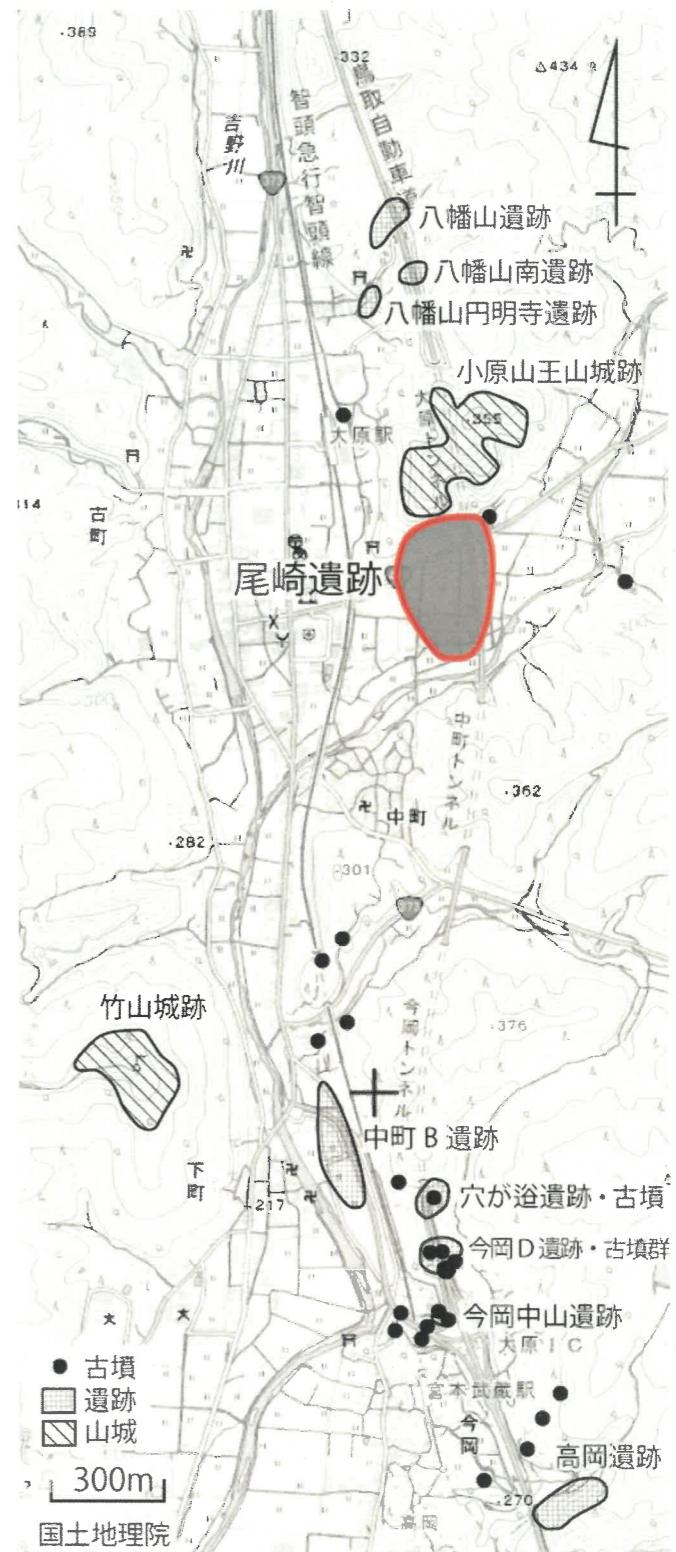
岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道429号改築工事に伴い、令和4年5月から尾崎遺跡の発掘調査を行っています。

本遺跡は美作市古町に所在し、周辺には吉野川と後山川の合流地点を中心に発達した谷底平野が広がっています。

尾崎遺跡は弥生時代から室町時代にかけての集落遺跡で、平成17・18年度に行われた、鳥取自動車道建設に伴う同遺跡の発掘調査では、^{たて}弥生・古墳時代の豎穴住居や、^{あなじゅうきょ}古代（奈良～平安時代）・中世（鎌倉～室町時代）の掘立柱建物群などが発見されています。特に古代の掘立柱建物群は、^{えんめんけん}円面硯（役所などで使用した焼き物の硯）^{すずり}^{じゅんばう}や巡方（役人の帯飾り）、^{りょくゆうとうき}^に^ね^は^じ^き緑釉陶器、丹塗り土師器などの出土から、一般の住居ではない公的施設の可能性が考えられ、注目されました。

今回の調査では、粗密はありますが、長さ 200m の調査区全体で掘立柱建物の
柱穴が多数確認されています。

出土品には古代～中世の須恵器の杯や
わん なべ がしつ はがま びせん
椀、土師器の皿や鍋、瓦質の羽釜、備前
やき すりばち せいじ はくじ わん どすい
焼の摺鉢、青磁・白磁の碗、土錘(魚を
おもり てつくぎ てっさい
捕る網の錘)、鉄釘、鉄滓などがあり、
じょうもんどき やよいどき
その他に縄文土器や弥生土器も少量見つ
かりました。



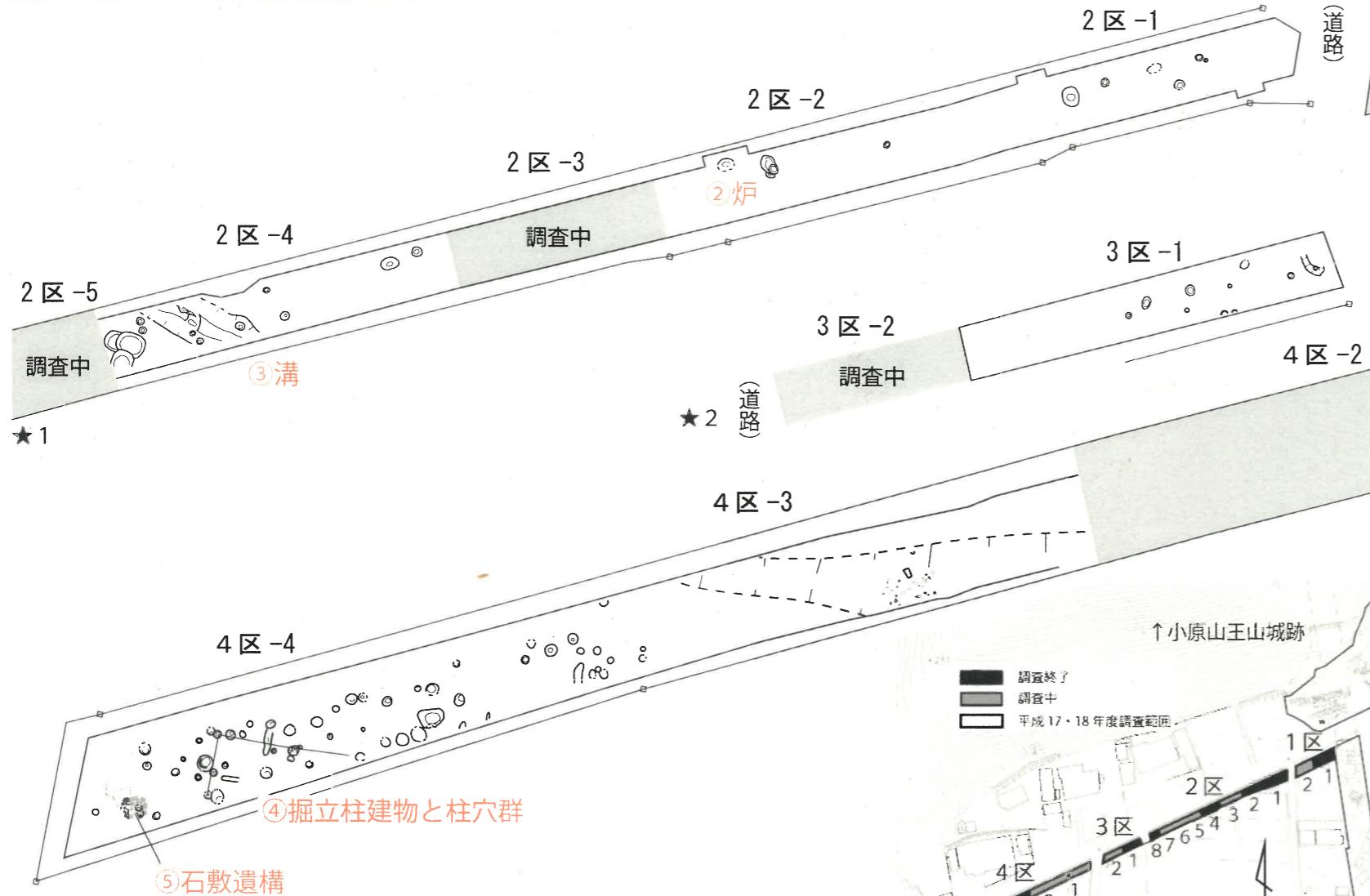
調査地周辺の主な遺跡分布



②炉（古代以降）

熱影響によって赤く変色した窪みが2基（直径30cmと50cm）見つかりました。周辺から鉄滓が出土することから、鍛冶炉ではないかと思われます。

(南から) ※点線内が炉



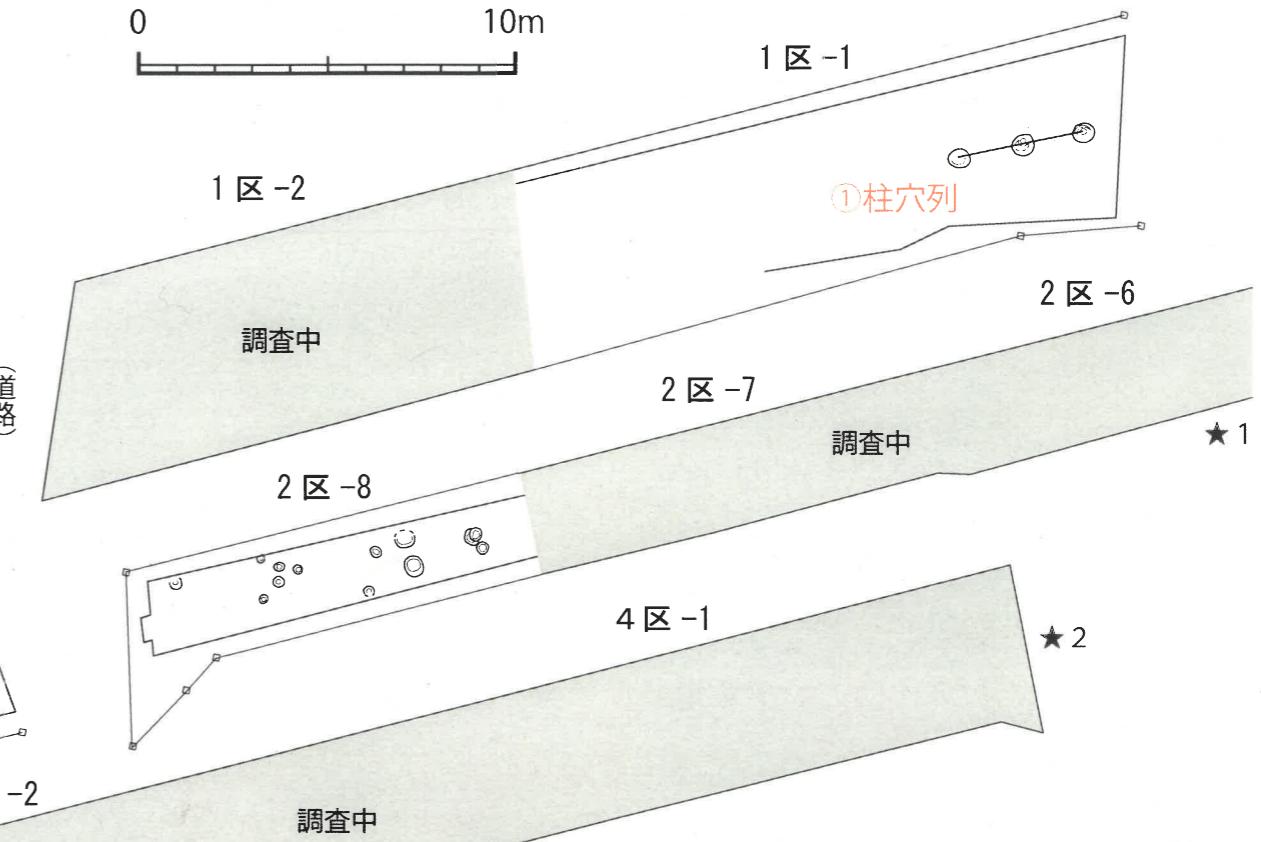
尾崎遺跡で見つかった遺構（1/200）



④掘立柱建物と柱穴群（中世）

この周辺（4区-4）では柱穴が多く見つかりました。複数棟の掘立柱建物が建っていたと考えられ、建て替えや時期差が想定されます。

2



①柱穴列（古代）

直径約60cm、深さ約30cmの柱穴3個が約1.7m間隔で並んでいました。鳥取自動車道建設時の発掘調査で見つかった古代の掘立柱建物群のうちの1棟と考えられます。



③溝（弥生時代）

幅約1.5m、深さ約30cm、北西から南東に伸びる溝です。自然の流路、もしくは水田の用・排水路かもしれません。



④掘立柱建物と柱穴群（中世）

この周辺（4区-4）では柱穴が多く見つかりました。複数棟の掘立柱建物が建っていたと考えられ、建て替えや時期差が想定されます。

⑤石敷遺構（平安時代末以降）

直径約90cmの範囲に拳大の石が敷かれています。石の表面は赤く変色しており、また炭化した木材が見つかったことから、何かを加熱した場所であることが分かります。



3